

2月13日、念願だった千葉刑務所に収監されている大助さんに面会することが出来ました。手続きで面倒かな～と不安でしたが、3回目の浅野さん、2回目の田中さん達と同行で心強かったのと「ちば支援する会」の北川さんの送迎と面会手続きなど安心しました。

晴れて風が強く冷たい中、面会までに長く待たされた。面会者が5組位だったのでもっと早く終わるだろうと思ったが？…部屋に入ると、対面のドアから直ぐにニコニコ顔で大助さんが現れました。

ドラマなどで見るものと大違い、私達3人が横並びなるとすく壁、大助さんと刑務官が並んでメモしている。

浅野さんが準備したメモを見ながら再審の説明をしたが、弁護団、支援者のおおよその動きは知っていた。

救援会神奈川県本部の支援に大変感謝していた。差入れの要望を聞き「特にないが…読み物を」と、所内売店で買い、現金も差し入れました。

赤間さん



茨城の支援する会の結成

倍楽園の梅も咲き始めてきた水戸で、布川事件の再審無罪を勝ちとった「布川守る会 茨城」と「救援会茨城県本部」の人たちが中心となり2010年頃から学習会、バスツアーで会津の旅、宮城被災地支援の旅で、大助さんの御両親の交流と「準備会」を数回重ねて結成総会が2月23日に行われました。

一部の講演は阿部泰雄弁護士からの事件当時の異常なマスコミ報道や大助さんとの接見での初めての出会いを話され、再審申請から一年が経って昨年8月からの3者協議の動き、特に検察の調書に対して弁護団は2月23日に意見書提出をしたとの新しい報告、元々この北陵クニツプでは殺人事件はなかったことも強調されました。

総会は御両親が2日に大助さんとの面会を終えての参加でお母さんから『特に今年は寒い冬で大助は「アカギレ」が酷くなっている』が茨城が全国で34の会が出来たことに喜びの涙を見せていました。

役員体制も30数名（医療関係者も含む）と、布川事件支援のように楽しく明るい活動と家族的な支



二月十三日、面会室の大助さんは、いつものように明るい人でした。まず、支部の活動について説明をしました。三月二日の関東連絡会主催の学習会や三月二〇日仙台台での全国集会のことは知っていました。「田戸さん（救神奈川）は元気ですか」

東電〇し事件の客野さんの話しになりました。「三月二四日に守る会の解散」が行われるがその後、客野さんは何を？とも言っていました。何回か大助さん面会に来てくれたり、そうです。話は「証拠の試料」について、検察側が使い切ったことなども大助さんが理解をしていた。ここで二〇分面会終了のブザーが鳴りました。刑務所の大助さんの部屋は暖房がない房で暮らしています。

支部では次に面会者を決めて取り組んでいることも伝えました。

浅野さん

援する会がつくられて大助さんの再審無罪をめざしての大きな力になることを感じました。【戸賀】

